

救急の場合 ■ ■ ■

診療時間以外に緊急を要する場合は、当直医に連絡を取ってください。当直医のポケットベル番号は、日本クリニックまでお電話いただければ、メッセージでお知らせしています。当直医のポケットベルを呼び出し、患者様の電話番号をエリアコードから入力して下さい。当直医が折り返しお電話差し上げます。



何らかの理由で当直医と連絡の取れない時は、お近くのUrgent Care Center（緊急医療センター）か、ER = Emergency Room（救急室）に直接行ってください。重症の場合や、生命に危険のある時は、911に電話をして、救急車を呼んでください。2~3才以下の子供は、サンディエゴの小児病院のERまで連れて行ってください。

Rady Children's Hospital
3020 Children's Way, San Diego, CA 92123
(858) 576-1700

日本クリニックについて ■ ■ ■

日本クリニックは疾病予防から診断による包括的できめ細やかな総合医療サービスを実現する事によって、全ての日本人が健康で安心した海外生活を送れるように設立された総合医療施設です。



日米両国の経験豊富な医師達が、常に最先端の医療を日本のサービスで皆様に提供していくと共に、日本と世界を結ぶ医療の架け橋となる事を目的としております。



- Atlanta** 993-F Johnson Ferry Road NE, #240
Atlanta, GA 30342
TEL: (404) 843-8910 / FAX: (404) 843-3567
- Chicago** 2010 S.Arlington Heights Road, #101
Arlington Heights, IL 60005
TEL: (847) 952-8910 / FAX: (847) 952-0606
- Manhattan-41** 16 East 41st Street, 6th FL.
New York, NY 10036
TEL: (212) 532-8910 / FAX: (212) 532-4260
- Manhattan-44** 15 West 44th Street, 10th FL.
New York, NY 10036
TEL: (212) 575-8910 / FAX: (212) 575-1830
- San Diego** 3707 Convoy Street
San Diego, CA 92111
TEL: (858) 560-8910 / FAX: (858) 560-8011
- Westchester** 111 North Central Avenue, #260
Hartsdale, NY 10530
TEL: (914) 683-7388 / FAX: (914) 683-8419



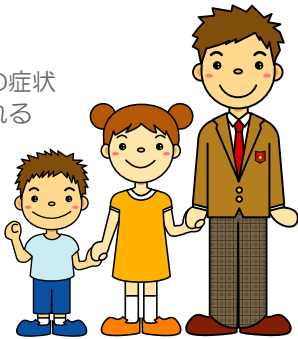
小児科のご案内



ご挨拶

子供は、大人を小さくした存在ではありません。同じ病原菌が原因の病気であっても、年齢に応じて症状が変わることもありますから、新生児期から思春期に至るまでは、年齢に応じた理解をもって診療する事が大切です。

ところが、子供はすべての症状を言葉にして表現してくれるわけではないので、子供の状態を見て、私たちが判断しなくてはならない事も多々あります。したがって、大人以上に言語外のコミュニケーションが重要です。



『疾患を診るのではなく、子供を診る』

子供の病気は、風邪だといって軽んじたり、肺炎だからといって重要視すればよいわけではありません。風邪だと思っていたら重症感染の初期症状であったり、マイコプラズマの肺炎であれば、全身状態は意外と良い場合もあるからです。あくまでも、子供の状態を診る事が大切なのであって、必ずしも病気を診ることだけが大事なわけではありません。



日本クリニックでは、上述のことを念頭に入れ、子供に対しても全人的なアプローチで接しています。また、子供の健全な発育・発達を支援し、予防接種や乳幼児健診を通じて、予防医療の考え方も伝えたいと考えています。

日本クリニック・サンディエゴ院長
内科・小児科医
金 一東

小児健診と予防接種

アメリカでは各州が必要最低限の予防接種を州法により決めています。これとは別に、連邦政府の機関であるCDC（疾病予防管理センター）と、小児科学会、そして家庭医学会が毎年共同して予防接種のスケジュール定めています。このスケジュールに沿って健診・予防接種を受けるのが全米では一般的です。



小児健診は、生後直後、生後1～2週間、2ヶ月、4ヶ月、6ヶ月、9ヶ月、12ヶ月、15ヶ月、18ヶ月、2才、それ以降は毎年行います。予防接種は、毎健診時ではありませんが、普通は健診のスケジュールに沿って行なわれます。

大切な学童期・思春期の健診



小学校に入学してしまうと、必要な予防接種がなくなるので、健診を受けなくなる小児が多いですが、学童期から思春期に至る時期も健診は非常に大切ですのでご注意ください。

年齢	CDC推薦の予防接種スケジュール(0-12才まで)
新生児	B型肝炎(1)
2ヶ月健診	DTaP(3種混合)(1)、IPV(筋注ポリオ)(1)、B型肝炎(1)、インフルエンザ桿菌(1)、PCV7(肺炎菌)(1)、ロタ(1)
4ヶ月健診	DTaP(2)、IPV(2)、B型肝炎(2)、インフルエンザ桿菌(2)、PCV7(肺炎菌)(2)、ロタ(2)
6ヶ月健診	DTaP(3)、IPV(3)、B型肝炎(3)、インフルエンザ桿菌(3)、PCV7(肺炎菌)(3)、ロタ(3)
12ヶ月健診	MMR(麻疹・風疹・おたふく)(1)、インフルエンザ桿菌(4)、PCV7(4)、A型肝炎(1)、水疱瘡(1)
15ヶ月～18ヶ月健診	DTaP(4)、A型肝炎(2)
4～6歳健診	DTaP(5)、IPV(4)、MMR(2)、水疱瘡(2)
11～12才健診	Tdap(大人用3種混合)、HPV(ヒト乳頭ウイルス)3回、MCV4(髄膜炎)

各州によって取り扱い接種は異なる場合があります。

金 一東医師の略歴

神戸市出身
岡山大学医学部卒業
岡山大学医学部大学院
コロンビア大学公衆衛生大学院



- 横須賀米海軍病院インターン (全科ローテーション)
- 宇治徳洲会病院研修医 (全科ローテーション)
- ナショナル・メディカル・クリニック スタッフ
- エール大プログラム・ブリッジポート病院研修医 (内科・小児科)
- 同研修プログラム・チーフレジデント

米国公認小児科専門医
米国公認内科専門医
米国小児科学会員、米国内科学会員

金医師とプライマリ・ケア

金医師は、日本では全科ローテーションを研修し、アメリカでは内科と小児科の専門研修を受けています。

日本の全科ローテーションでは、内科、外科、小児科、産婦人科といった主要科目だけでなく、整形外科や泌尿器科、脳外科、皮膚科、救急医療などもローテート研修し、日本でいうプライマリ・ケア医になるための研修を終えています。

アメリカでは、内科と小児科に絞って研修を続け、循環器科、胃腸科、呼吸器科、感染科、腎臓科などの専門科もローテーションを行いました。

金医師は、米国公認の小児科専門医と内科医の資格を有しているため、内科、小児科を中心としたプライマリ・ケアによる家族全員の健康管理が可能です。また、専門的な受診が必要な患者様には、適切な専門医を紹介し、総合的な健康管理を行っています。